

可欠です。そばの育成に適した土地・冷涼な気候・水どれも長野ならではのでしょう。

戸隠は年間の平均気温が低く、昼夜の温度差が激しい高冷地。おいしいそばが育つのに適した環境で、生育の頃に霧が発生する事から「霧下そば」と呼ばれる。戸隠山から湧き出る清澄な伏流水をそば打ちに使うことで、絶妙な喉ごしと風味豊かなそばが誕生する。

メタボと騒がれている昨今、お蕎麦はとてもヘルシーと注目されていますので是非御開帳にいらして頂きご賞味ください。『遠くとも一度は詣れ善光寺』お待ちしております。

((株)角 藤 川添 摩子)



善光寺



戸隠そば

ここにこんな人が

私の履歴書

今回は事務局がご多忙な中川専務にインタビューしました。



(株)塩見組 専務取締役

中川 隆弘



中川 隆弘 (なかがわたかひろ)

昭和31年7月3日鹿児島県生まれ
昭和60年(株)塩見組入社
平成18年専務取締役に就任

■郷里・幼年時代・学生時代

東には温泉の熱で温められた砂の中に埋まる「砂むし」で知られる温泉地、西には美しい円錐形をした南薩摩のシンボルで「薩摩富士」ともよばれ、日本の百名山にも選ばれた秀峰、開聞岳、南には東シナ海、北には水深233mの九州最大の湖で、「イッシー」が棲んでいるともいわれる池田湖をもつ景勝の池、指宿(いぶすき)市開聞町という田舎町で生まれた。

幼年時代は、夏は海水浴、魚釣り、秋には開聞岳の山麓であけびや山桃採り等自然の中で遊んだ。

中学時代は剣道部、高校時代はラグビー部と運動してきたので体力には自信があり、社会に出て役立った。

■社会に出て

塩見組に入社して基礎工事(陸上施工、海上施工)の現場で経験が必要と思われ資格も取得後、営業担当としてやってきた。

専務就任後は営業部門の他技術者、技能者の育成や次世代の若者への技術力、技能力の継承に力を入れてきた。

先見性、積極的な行動力、温厚・誠実な人柄で、仕事に取組み、顧客の信頼を得た。

■会社の歴史

- 誕生:昭和30年、(株)塩見組として、建設業からの出発。
- 発展:昭和52年、場所打杭を築造する「ベノト工法」を導入。
- 昭和55年、ドリリングバケットを使い、場所打杭を築造する「アースドリル工法」を導入。
- 昭和60年、パイプロハンマとウォータージェットを併用して杭の打込み、引抜きを行う「JV工法」を導入。
- 昭和60年、大口径岩盤を穿孔する「ドーナツオーガ工法」(一体型)を導入。
- 昭和61年、既製杭を圧入する「中掘圧入工法」を導入。
- 進 化:平成 2年、大口径岩盤を穿孔するケーシング全周回転「CD工法」を導入。
- 平成 3年、大口径岩盤を穿孔する「ドーナツオーガ工法」(セパレート型)を導入。

- 平成 4年、自己昇降式作業台「JEP工法」(大型海上工事)を導入。
- 平成 7年、自己昇降式作業台「SEP式CDT法」(海上施工)を導入。
- 平成12年、深層混合処理工事(地盤改良)「エポコラム工法」を導入。

■経営

当社は2部門で構成。

「基礎工事部」は、土木工事、基礎工事を担当。「総合建設部」は、とび・土木工事、鋼構造物工事、鉄筋工事、舗装工事、しゅんせつ工事、水道施設工事を担当。

■社員とのコミュニケーション

現場巡回時に食事会で、コミュニケーションを両ついている。業務上必要な免許・資格の取得は公的機関の研修会に参加させ取得させている。日常の作業の中で、技術・技能を向上させる「OJT」を実施している。

■趣味・信条

日々仕事上の信条は「現場こそが営業」です。専業者として技術力、管理力、機械力、機動力を生かして顧客に納得の頂ける仕事を行なうことです。

姓名学による鑑定では、「宿命的運・才能・人柄・生涯運・姓と名の調和」が大吉。恵まれた才能、強固な意志力、積極的な行動、先見性、着実な発展運、明るく温厚・誠実な人柄、思いやり深く包容力があり、優れた人間関係の円満さを持ち、財を子孫に伝える人とか。

趣味は、休日にバイクで自然の風を浴びながらゆっくりツーリングすること。

■今後の展望

北九州はわが国黎明期における文化の先進地域として発達してきた。

近年は首都圏、中京圏、関西圏に次ぐ一大経済圏を形成するに至っている。その中核の地に本拠を構えてきた私どもは、このような発展の歴史に微力ながらその一端を担ったことを誇りとし、また自信を持って新たな領域へとチャレンジしていくことを決意している。

さらに業界の重要なテーマの一つである自然との調和を大前提とした開発発展に全力を尽くし、新たな空間の創造に躍進していく所存です。

激務ゆえ健康にはくれぐれもご留意を。

(事務局 葭田 誠作)

【お知らせ】

◆会員会社(株)高知丸高 代表取締役社長・高野広茂様には、土木工学の進歩発展に功勞のあった者に授与される土木学会技術功勞賞を受賞されました。

編集後記

協会ニュース発行にあたり、執筆者の皆様にはご多忙のところご協力頂きまして誠に有難うございました。(編集分科会)